

I. 調査の概要

1-1 調査の目的及び方法

(1) 背景・目的

郊外部での大型ショッピングセンターの建設、消費者の買物に対する考え方の変化、車社会の進展などによって地域の小売商店及び商店街は壊滅的な状況にあり、地域商業者の置かれた環境は大変厳しいものがある。

しかし、全国にはそうした環境の下でも逞しく生き、再び輝きを取り戻している商店・商店街もあり、大いに励まされる状況も出現している。

そこで、多様化する消費者の買物意識の動向やここ数年の変化などを把握することが、明日の海津市の商業振興、商店街振興を考える上で重要であると考えます。

本調査は、海津市民を対象に日頃の買物動向や市内の商店・商店街への思いを調査・分析することにより、市内商店に対する今後の経営支援、地域商業活性化に役立てるための基礎資料を得ることを目的に実施したものである。

(2) 調査期日

アンケート調査の実施期間は、平成25年11月15日～11月30日までの16日間である。しかし、12月末までに郵送されたものは有効票として集計している。

(3) 調査実施方法

調査は、20歳以上の市民5,000人を平成25年10月末時点の住民基本台帳から無作為に抽出し、**郵送配布留置郵送回収方式**で実施している。

(4) 調査内容

買物動向調査は、各地区で実地されている（例えば、岐阜県商工会連合会が「岐阜地域」で平成18年3月に実施）以下の主要10品目について、買物場所（市町）、店の種類（大型店・小売店など）、買物理由、5年前との変化とともに、大型店の利用頻度、市内商店街の利用箇所と頻度、近隣商店や商店街が減少することへの評価、市内商店の評価、市内商店・商店街への要望、買物時の自動車利用状況について調査した。

表 1-1 買物調査品目

区 分	調査品目
買回品	紳士服
	婦人服
	婦人靴
	スポーツ・レジャー用品
準買回品	電気製品
	下着
最寄品	化粧品
	台所用品
贈答品	食料品
	贈答品

(5) 回収状況

アンケート票の配布数 5,000 票に対して回収数は 2,212 票 (44%) であった。しかし、白紙やほとんど記入されていないもの及び期限後に送られてきた無効票が 35 票あり、有効回数は 2,177 票、有効回収率は 44% であった。一般的にアンケート調査は 30% 回収率が目安とされているが、その面からみると極めて市民の関心が高く高回収率であったと評価できる。

1-2 誤差の検定

アンケート調査で市民意向を把握する場合、全市民を対象に実施することが望ましいが、膨大な費用を必要とすることから、実際には適当な人数を選んで精度の高い調査結果 (全数調査の結果に近い調査結果) を得るように実施されている。今回の場合、多くの市民の協力により 2,177 人からの有効回答を得たが、この結果がどの程度の精度を持った回答結果であるのかを検討することを標本誤差の算出という。

標本誤差の範囲は、結果の比率との関係から以下の式で表すことができる。

$$\sigma = \pm k \sqrt{\frac{M-n}{M-1} \cdot \frac{p(1-p)}{n}}$$

M : 母集団
 n : 有効回収数
 p : 結果の比率 (百分率)
 k : 信頼度による定数
 σ : 標本誤差

ここで信頼度を 95% とすると k (信頼度の定数) は 1.96 であるため、これを基に誤差を算出すると表 1-2 のようになる。

この表の見方は、今回のアンケート調査のある設問で、例えば「A」という回答が全体の 50%、「B」が 20% であったとする。仮に全住民に同じ設問を尋ねたとしても、統計学的にいえば、この表のとおり 95% の確率で「A」は 50±2.02% の範囲内となり、「B」は 20±1.62% の範囲となるということである。従って、本調査における市全体の回答結果は回答が最も分散していた場合でも、全住民から得られる結果と比べて±2% 程度の誤差しか生じないことになり、かなり精度の高い調査結果といえる。また、町ごとに分析する場合は、結果に最大で±4.5% 程度の誤差しかないと考えられる。年齢別では、数の最も少ない「20 歳代以下」で最大で±10% である。

表 1-2 誤差の検定

結果の比率		50%・50%	40%・60%	30%・70%	20%・80%	10%・90%
全	体	2.02	1.98	1.86	1.62	1.21
町別	海津町	3.35	3.28	3.07	2.68	3.01
	平田町	4.54	4.45	4.16	3.63	2.73
	南濃町	3.06	3.00	2.81	2.45	1.84
年齢別	20 歳代以下	10.09	9.89	9.25	8.07	6.05
	30 歳代	6.54	6.41	5.99	5.23	3.92
	40 歳代	4.92	4.82	4.51	3.94	2.95
	50 歳代	4.16	4.08	3.81	3.33	2.50
	60 歳代	3.77	3.70	3.46	3.02	2.26
	70 歳代以上	5.04	4.93	4.62	4.03	3.02

Ⅱ. 回答者の属性

2-1 回答者の個人属性

(1) 居住地

回答者の居住地は、南濃町が42%と最も多く、次いで海津町が37%、平田町が20%である(表2-1)。これは、人口比重とほぼ一致しており、各町とも同じような回答率であったと言える。

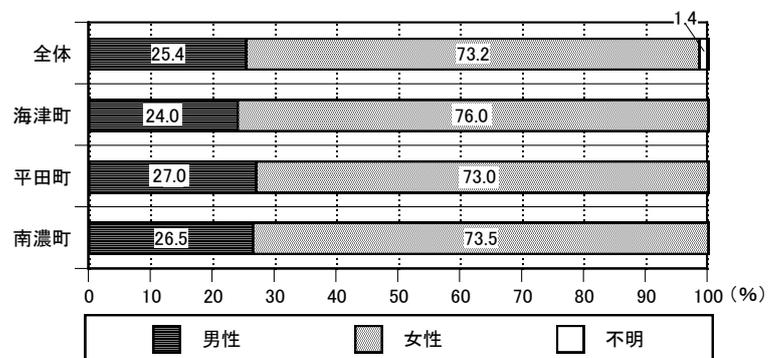
表 2-1 町別回答者(不明を除く)

	対象者数	抽出数	抽出率	回答者数	回答率
全体	30,671	5,000	100.0	2,177	100.0
海津町	11,293	1,853	37.1	795	36.5
平田町	6,233	1,017	20.3	433	19.9
南濃町	13,145	2,130	42.6	907	41.7

(2) 性別

回答者の性別では、男性が25%、女性が73%であり、女性が圧倒的に多い。(図2-1)。それは、抽出は母数に沿って均等に行ったが、記入にあたっての注意事項で「主に買物をされる方にお答えください」としたためである。しかし、買物を行う人の大半は女性であるので女性回答者が多くなっていることは、結果の信頼度は高いものと考えられる。

図 2-1 回答者の性別

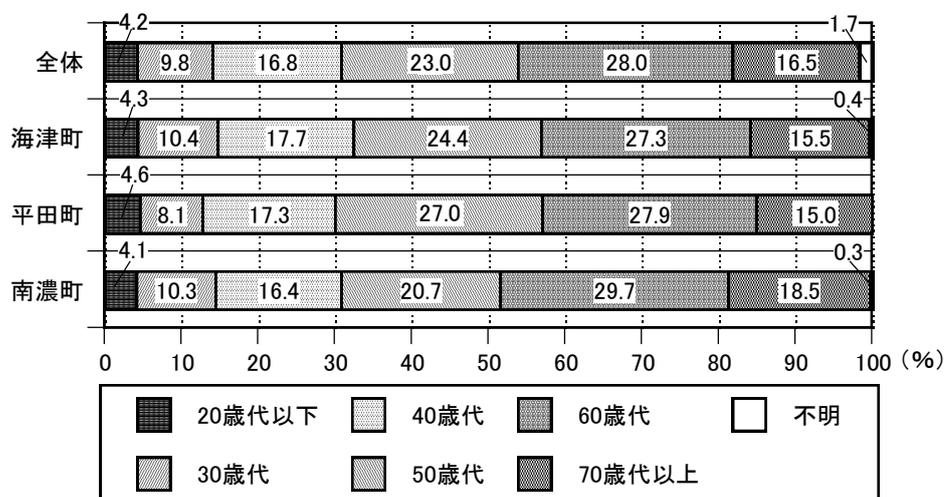


(3) 年齢

回答者の年齢は、「60歳代」が28%と最も多く、次いで「50歳代」が23%、「40歳代」が17%、「70歳代以上」が17%の順となっている。

町別では、特に大きな違いはないが、平田町で「50歳代」が、南濃町で「70歳代以上」が他町に比べてやや高くなっている。

図 2-2 町別「回答者の年齢」



(4) 職業

回答者の職業は、「専業主婦（主夫）」が 25%と最も多く、次いで「パート・アルバイト」が 21%、「会社員・公務員」が 20%、「無職」が 16%、「自営・商店経営」が 7%である。女性及び高齢者の回答者が相対的に多いことから、「専業主婦（主夫）」及び「パート・アルバイト」、「無職」を合わせて 63%となっている。

町別では、南濃町で他町に比べて「無職」の割合がやや高い、「自営業・商店経営」が少ない他は目立った違いはない（図 2-3）。

年齢別では、「20 歳代以下」の若い人は「会社員・公務員」が 60% 「70 歳代以上」で「無職」が 55%と際立って高い他、「30 歳代」で「会社員・公務員」及び「パート・ア

ルバイト」が、「60 歳代」で「主婦（主夫）」が、それぞれ全体より 10 ポイント以上高くなっているのが特徴的である。

図 2-3 町別「回答者の職業」

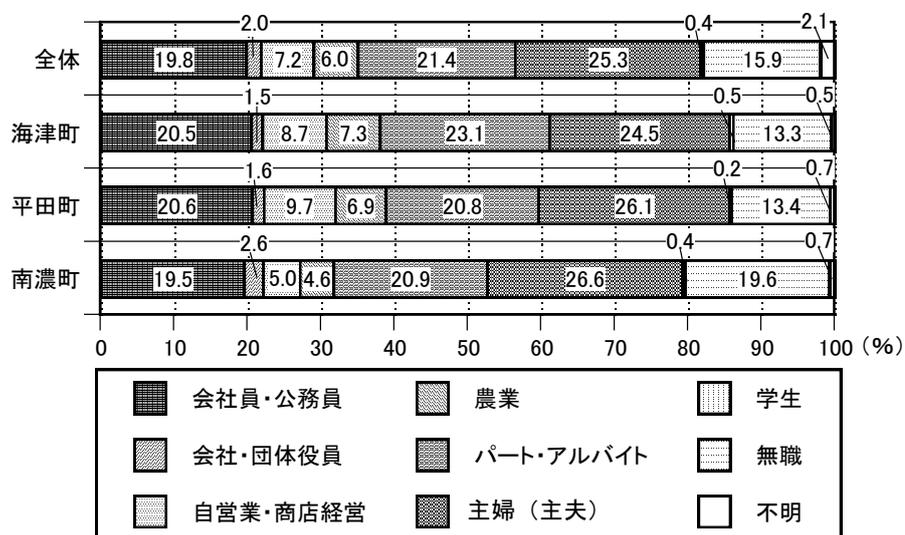
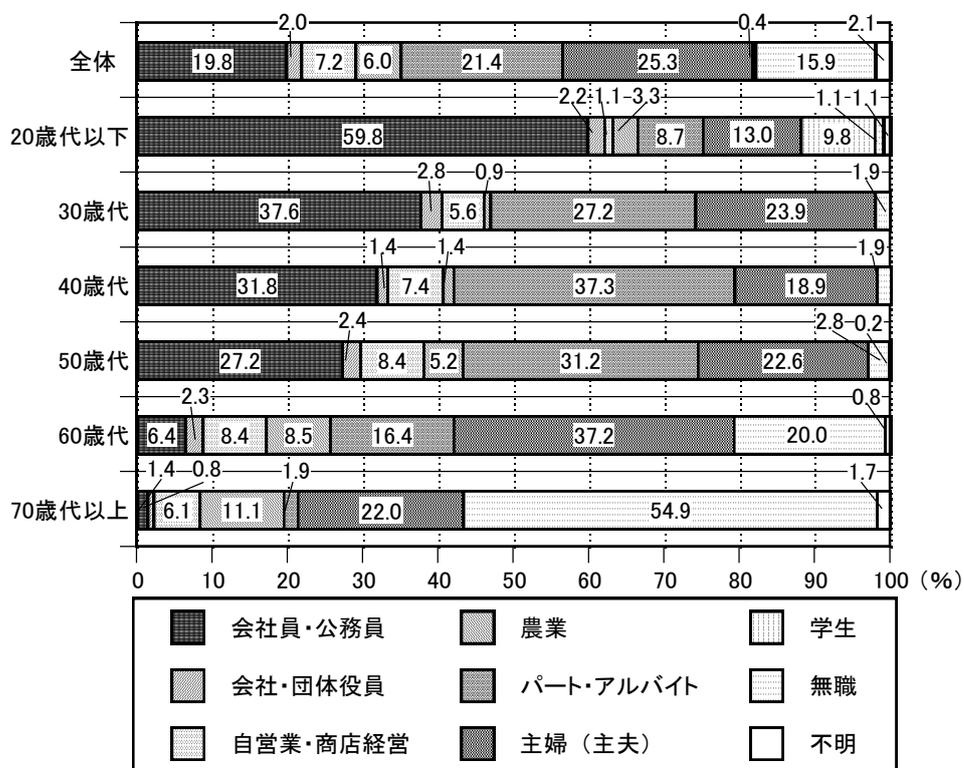


図 2-4 年齢別「回答者の職業」



2-2 回答者の世帯属性

(1) 家族人数

回答者の家族人数は、「2人」が23%、「3人」が21%、「4人」が20%、「6人以上」が16%、「5人」が14%の順となっており、ここから計算して平均家族人数は3.8人である。なお、本市の平均世帯人数は3.13人であるので多人数回答者が多くなっている。

町別では、「2人」世帯が南濃町で、「5人」世帯が平田町でやや高く多人数世帯が平田町が多い（図2-5）。

年齢別では、高齢者ほど家族人数は少なく、「60歳代」、「70歳代以上」で「2人」世帯が、「40歳代」では「4人」世帯が、全体平均を10ポイント以上も上回って多くなっている（図2-6）。

(2) 家族構成

回答者の家族構成では、核家族化の進展を反映して「二世帯」世帯の夫婦と子供・親と子供世帯が45%と最も多く、次いで農村に多く見られる「三世帯」世帯が26%、(高齢)「夫婦だけ」世帯が21%となっている。

町別では、「三世帯」世帯が平田町で平均を5ポイント上回っており、「夫婦だけ」世帯が南濃町でやや多くなっているが全体として大差はない（図2-7）。

図2-5 町別「家族人数」

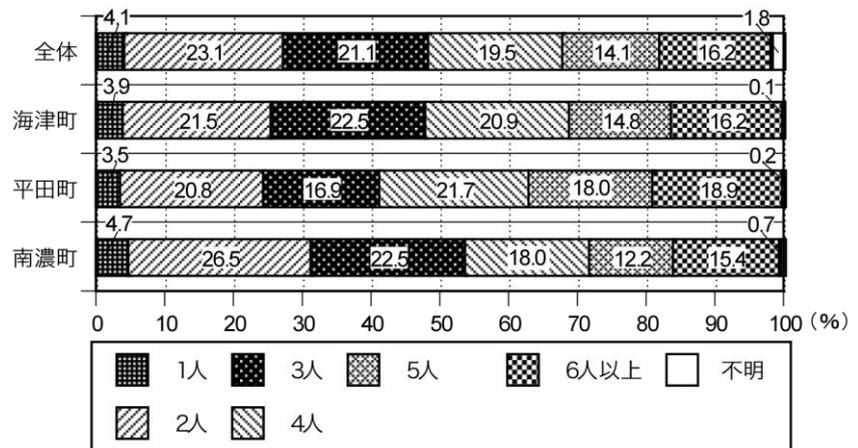
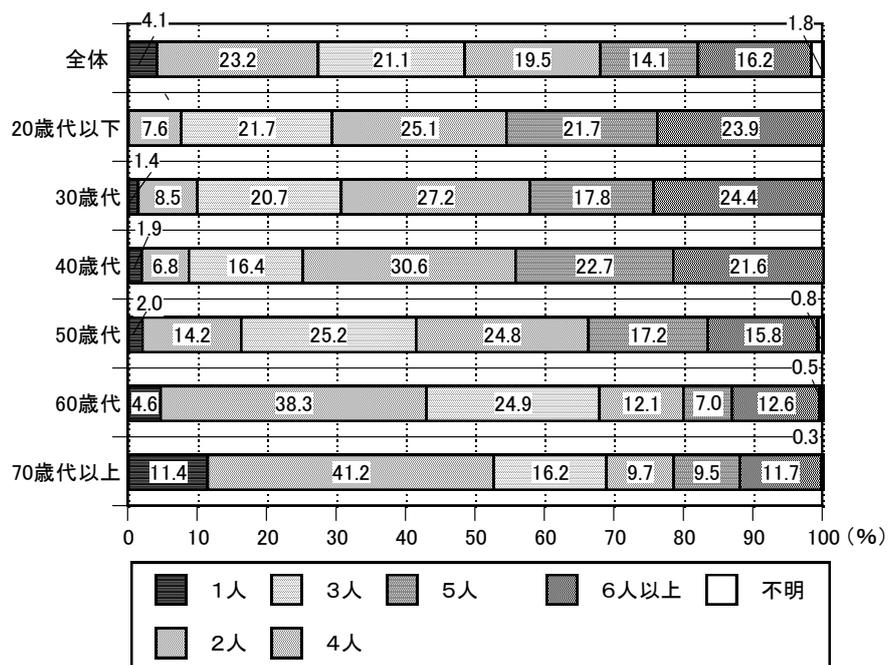
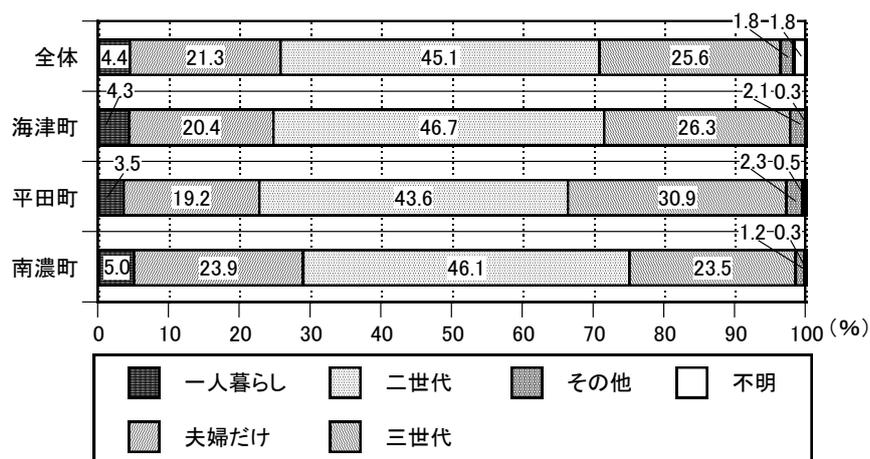


図2-6 年齢別別「家族人数」



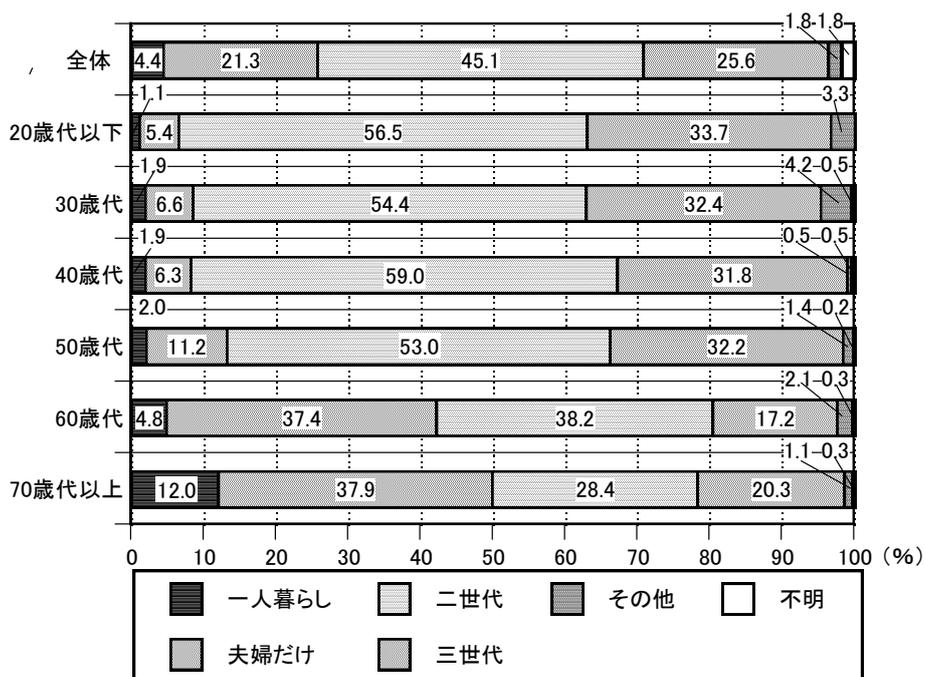
年齢別では、「夫婦だけ」世帯が「60 歳代」、「70 歳代以上」でそれぞれ 37%、38%と高くなっている他、「二世帯」世帯が「20 歳代以下」、「40 歳代」で 10 ポイント以上、「30 歳代」、「50 歳代」では 8 ポイント程度全体を上回っている。また、「三世帯」

図 2-7 町別「家族構成」



世帯が「50 歳代」以下で 30%台と多くなっている (図 2-8)。このことから、海津市では、若い人も家族で居住しており、典型的な農村地帯の社会環境が残されている。

図 2-8 年齢別「家族構成」



(3) 車の所有状況

岐阜県は、全国的にも 1～2 位を争う世帯当たりの車保有率の高い県であるが、本市も車所有「なし」世帯はわずか 2%であり、大半の世帯で車を所有している。所有台数は「2 台」が 31%、「4 台以上」が 26%、「3 台」が 23%、「1 台」が 16%の順となっており、平均所有台数は 1 世帯当たり 2.9 台である。

町別では、「4 台以上」が平田町で、「1 台」が南濃町でやや高く、平均台数では平田町が 3.2 台と最も高く、次いで海津町が 3.0 台、南濃町が 2.7 台である (図 2-9)。

また年齢別では、「30 歳代」「40 歳代」で 2 台所有者が目立って多いほか、「3 台」以

上は「20 歳代以下」、
「50 歳代」が多い。
一方、「1 台」は
「70 歳代以上」の
高齢者で多くなって
いるほか、「なし」
の世帯も「70 歳代
以上」で最も多くな
っている。しかし、
その割合はわずか
10%に過ぎない
(図 2-10)。

家族構成別では、
「一人暮らし」世
帯では当然「1
台」が 57%と高い
が、「なし」も
37%と際立って高
い。また、「夫婦
だけ」世帯では、
「1 台」が 38%、
「2 台」が 49%と
2 台ある世帯の方
が遙かに多くなっ
ているほか、「二
世代」世帯は「2
台」が 37%と最も
高いが、「3 台」
以上も 53%と半数
を超えている。も
ちろん「三世代」
世帯では、「3
台」が 30%である
がそれ以上に、
「4 台以上」が 56%
とやはり高い。

図 2-9 町別「車の所有状況」

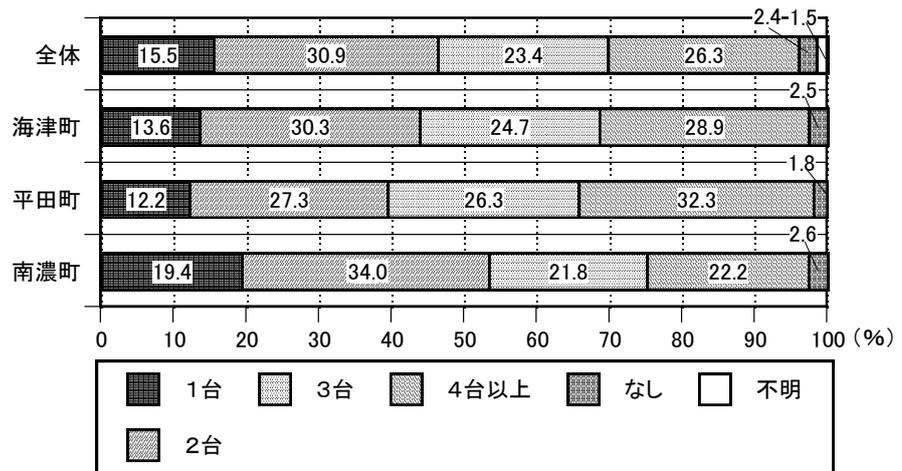


図 2-10 年齢別「車の所有状況」

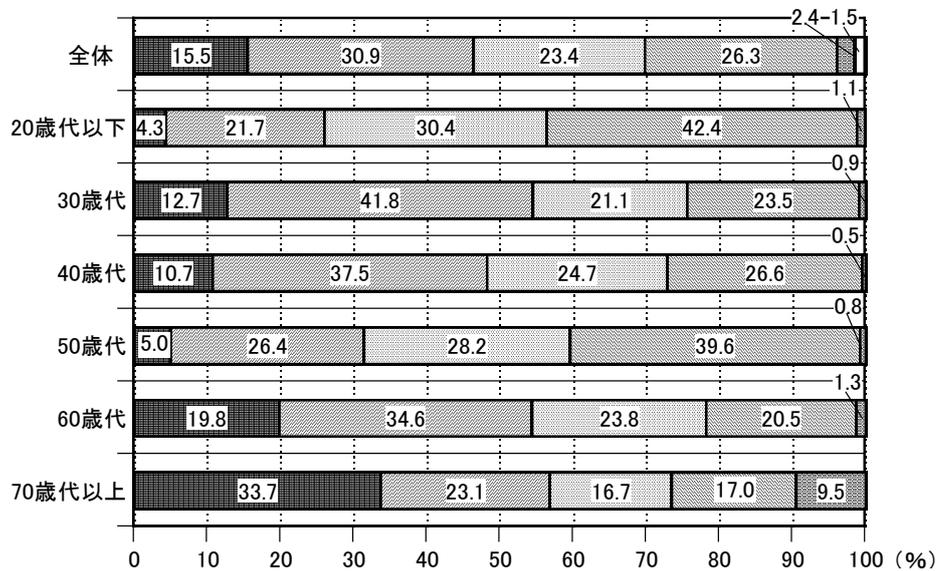


図 2-11 家族形態別「車の所有状況」

